

道徳科における「見方・考え方」は、道徳科の目標に示された学習活動「様々な事象を、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己（人間として）の生き方について考えること（※括弧内は中学校）」のことです。この学習活動全体が「深い学び」の鍵となります。道徳科における「『見方・考え方』を働かせる」とは、教師にしてみれば、そのような学習過程を大切にされた指導の工夫をすることであり、子供にしてみれば、そのような学習活動を行うということになります。

道徳教育

道徳科における「見方・考え方」を働かせている状況

道徳的諸価値の理解を基に・・・

道徳的価値の理解に当たっては、3つの理解を深めることが大切です。

- 人間としてよりよく生きる上で大切なことであると理解すること（価値理解）
- 道徳的価値は大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さなども理解すること（人間理解）
- 道徳的価値を実現したり、実現できなかったりする場合の感じ方、考え方は一つではない、多様であるということなどを前提にして理解すること（他者理解）等

自己を見つめる
(自分との関わりで考える)

【これまでの道徳の時間の課題】

読み物教材の登場人物の心情理解のみに終始する指導

改善

【学習活動の工夫(例)】

- ・授業の導入、展開、終末で、子供たちが日常生活の経験や学校における共通体験を想起できる工夫を行う。
- ・読み物教材等の登場人物の気持ちに共感することに止まらず、自分の体験から表現できるような発問を工夫する。など



多面的・多角的に考える

【これまでの道徳の時間の課題】

特定の道徳的価値を絶対的なものとして指導したり、本来実感を伴って理解すべき道徳的価値のよさや大切さを観念的に理解させたりする学習に終始する指導

改善

【学習活動の工夫(例)】

- ・ペアや小グループでの話し合い活動で交流することを通して、子供同士の対話を促す。
- ・教師はもちろん、保護者、地域住民、専門家等に授業に参加してもらい、大人との対話を促す。
- ・教材を通じて先人の考え方や思いに触れる。など



自己の(人間としての)生き方について考える

【学習活動の工夫(例)】

- ・授業の中で、子供がこれまでの生き方を振り返ったり、これからの生き方に希望をもったりできるような時間と場を確保する。
- ・学習過程や成果などの記録を集積し、学習状況を自ら把握し振り返ることができるように工夫する。など



総合的な学習の時間・特別活動

補充・深化・統合

各教科・外国語活動

補充・深化・統合

目的

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う

※道徳性とは、人間としてよりよい生き方を目指して行われる道徳的な行為を可能にする人格的特性であり、人格の基盤をなすもの

【道徳性を構成する諸様相】

- ・道徳的判断力 ……それぞれの場面で善悪を判断する能力
- ・道徳的心情 ……道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情
- ・道徳的実践意欲 ……道徳的判断力や道徳的心情を基盤とし、道徳的価値を実現しようとする意志の働き
- ・道徳的態度 ……道徳的判断力や道徳的心情に裏付けられた具体的な道徳的行為への身構え

※ 道徳的諸様相には、特に序列や段階はなく、一人一人の児童生徒が道徳的価値を自覚し、自己の生き方についての考えを深め、日常生活や今後出会うであろう様々な場面、状況において、道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践することができるような内面的資質を意味します。

